

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100258		
法人名	医療法人 小林医院		
事業所名	高齢者福祉介護施設リラ		
所在地	福岡県北九州市門司区小森江3丁目3-26		
自己評価作成日	平成28年8月17日	評価結果確定日	平成28年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

その人がその人らしい生活を送ることができるよう、生活歴からの生活習慣を尊重し、できる限りの本人本位の生活を支援していくことを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ライラックの花の一種である名前からとった「高齢者福祉介護施設リラ」は医療法人を母体にもつユニット型グループホームである。小規模多機能とも併設されており、関門海峡にもほど近く、海を間近に感じられる住宅街の一角にある。開設から5年が経つが、地域との関係も良好で、地域行事にも積極的に参加しており、家庭的なサービスを目指し、特に食事には力を入れ、地元の食材を使った家庭的な料理を提供している。医療法人が母体であることで、医療連携もこまめにされており、開設当初から入居されている方でも元気に過ごされる。外出やレクにも取り組んでおりカラオケや、海岸での釣り、BBQなど季節折々の企画も好評である。小規模多機能とも併設であることで相互に交流し刺激にもなっているが、今後はさらに地域福祉の中心となるような情報発信や存在感の発揮が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入居者の方が、住み慣れた環境の中で、安心して生活できるよう支援している。	開設時に理事長が作成した理念があり、事業所内に掲示している。以前は唱和していたが今はしていない。理念とは別に職員に対して「認知症に対する心得」を掲示しており、協力して一緒に取り組むメッセージを伝えている。入職時に理念を伝え、個別面談で施設長が直接話すこともある。	年間の研修を定期的にする中で、理念に直接触れる機会もつくり、意識をもって実践する体制づくりをしてはどうだろうか。理念や目標、心得なども作っているが、一度全員で見直して、どこに取り組むかを明確にしたり、まとめてわかりやすくしてもよいのではないかと。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の自治連合会との交流の実施。 ・地域の方がボランティアとして利用者様との交流の機会を確保している。	自治会にも加入しており、年1回の清掃活動や、校区の夏祭りにも入居者と一緒に参加し、職員は手伝いもしている。文化祭への作品展示などもある。毎月ボランティアで書道教室をしてもらい、フラダンスの慰問もあり、事業所の秋祭りは地域の方もお招きしている。施設長が地元の老人会にも手伝いで入り、介護相談などを受けることもあった。	地域への認知度をさらに高めていくために、自治会や老人会など横のつながりを活かして、認知症や介護に関する勉強会や情報発信も積極的に行ってはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・校区の老人会に職員が所属させて頂き、その中で情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・入居者の毎月の活動内容、事故報告などをとおして、行政、地域、ご家族の方からアドバイスをいただいている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに、小規模多機能と合同で行っている。今年度から地域の方への声掛けも強化し、新たに自治会長や町内会長、老人会などからの参加が増えて話し合いも活発になった。市の職員も参加するようになり、意見や質問も多くいただいている。意見から地域への広報活動に取り組むようになり、HPの改編や折り込みなどを行って利用にもつながった。家族には請求時に案内を送付している。	家族の参加も増やしていくために、議事録の郵送報告や、開催日時の変更なども検討されてはどうか。また、地域への情報発信をテーマに参加者がたから意見やアドバイスを頂き、取り組みにつなげていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・北九州市の介護保険課の担当者の方、環境局の担当者の方と日頃より相談を行っている。	今年度から市の介護保険課からも職員が参加されるようになり、質問や相談もしやすくなった。直近では事業所の清掃処理などに関して行政とも相談を行った。空き情報などもFAXで報告している。生活保護の方の受け入れもあり、紹介を頂くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・昨今の、施設への襲撃事件等を考慮しながら、入居者様の安全を第一に考えながら施設運営を行っている。	防犯もかねて玄関周辺に職員がいない際は施錠はしているが、出られる入居者がいる時には見守りや付き添いで対応している。直近でも離脱事故があったがそれ以降は見守りを強化しその後は起きていない。車いすベルトの利用があったが、同意、確認、見直しなどは行っている。内部研修で拘束に関しても年1回定期的に学習している。	

H28自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内へのカメラの設置、録画。 ・管理者による職員への指導の実施。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要に応じて、成年後見制度のご案内を実施している。過去に数名活用されている。	入居後に事業所からの支援で制度利用に至った方や、現在も成年後見制度を活用されている方が1名おり、入居時などに必要があれば制度のご案内を行う。必要時には管理者やケアマネなどが主に担当し、現状では勉強会などは特に実施していない。	説明用に制度資料やパンフレットなどの準備を進められてはどうか。また、職員にも一般的な知識の理解を進めるため、年間の研修などに計画として入れ込まれることが期待される。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に説明を行い、不安点を解消するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議の実施。 ・ご家族来苑時の要望の聞き取りを行っている。 ・ご意見箱の設置。	毎月の支払いを現金払いにすることで、必ず月1回は面会に来てもらうようにしており、その際に意見や要望などを頂いている。以前は毎月のお便りを発行していたが、今はしていない。頂いた意見にも積極的に対応しており、家族にも喜ばれている。	以前は行っていたお便りの発行などを復活させるために、例えばモニタリングと合わせて行ったり、簡易的な写真と一言コメントなどで継続しやすい仕組みで取り組んでみてはどうか。日頃あがってこない意見や要望などを引き出すためにアンケートや家族会的な取り組みがなされることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・全職員を対象とした、管理者による定期的な面談の実施。 ・必要に応じた面談、会議の実施。	ユニット単位や、事業所全体での会議が1~2ヶ月に1回程度開催され、職員の希望するレクやケアの要望、入居者の個別の情報などを話し合っている。意見も出しやすく反映もされている。定期的な管理者との面談以外にも日頃から施設長とも話やすく相談などもされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の個性、特性に応じたチーム編成、担当業務の割り振りを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・職員募集に際し、性別、年齢、生活状況による採用不採用は行っていない。	男女比も半分に近く、年代も20~60代までとバランスよく配置されている。職員の得意な業務、特性を見て役割分担を決めており、おやつ作りやレクや清掃などに取り組んでいる。変形労働制をとっており、週3日の休みがあることで連休もとりやすい。休憩時間や休憩スペースも確保され労働環境を整えている。外部研修のご案内や参加もされている。	

H28自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・言葉遣い等、日々の業務の中で指導している。	人権そのものの研修ではないが、内部研修によって認知症高齢者の理解を通して、人権の理解も進めている。外部研修の参加も直近ではなかった。また法令順守や倫理に関する内部研修も定期的に行っている。	外部研修に参加した際の伝達を、資料回覧や報告などで共有してはどうだろうか。また、市などの関連団体の資料貸し出しや講師派遣などを使って啓発活動がなされることにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人外での研修について、研修案内が閲覧できる掲示板を設置し、研修希望者を募っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・周辺施設への見学を相互に行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のモニタリングの中で本人にお会いし相談や要望をお聞きし、信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談時に、お互いの疑問点、不安点を解消すべく、担当者を中心に信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談時に、グループホームの入所だけでなく、小規模多機能を含め外部サービスの提案も含めご家族本人様の希望に沿った利用をご案内している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、利用者様のできることはお手伝いして頂きながら、共同生活の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的な外泊、外出の機会を確保している。 ・外泊、外出時のサポートを行っている。		

H28自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・施設内での生活だけでなく、定期的な外出レク、一時帰宅等行っている。	家族の面会機会は多く、それ以外でも以前の仕事の関係などで知人や友人が来ることもある。遠方の家族や友人でも希望があれば施設の空きスペースを使って宿泊してもらうこともできる。家族に協力してもらっての外泊や一時帰宅を定期的にする方もおり、事業所からの支援で個別に外出支援も行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様の配席の考慮、役割の分担を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所者の相談、お見舞いを含め、連絡・連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の実現可能な要望や以前の生活リズムを尊重し、過ごしやすい生活が送れるよう検討している。	入居時に家族や本人から生活歴を聞き取り、「課題整理総括表」と「アセスメントシート」によって基本情報や心身状態などを把握している。主に計画作成担当者が担当し、現場リーダーからの意見も踏まえて一年で見直しも行う。意思疎通の難しい方は家族の意見や日頃の様子を観察して想像しながら意向の把握につなげ、新しい情報も追加している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様やご家族様とお話の際に情報収集をこまめに行い、新たに知りえた生活歴を全職員と共有し、支援に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・モニタリングやアセスメントによる状態把握を行い、現場には日々の申し送りや介護記録、連絡ノートによる記録により現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議や面会時におけるコミュニケーションを行い、入居者やご家族の意見や要望をお聞きするようにしている。また、本人の状態観察や現場スタッフへ現状を確認し、対応を考えていきながら、介護計画を作成している。	主に計画作成担当者が中心となって、プラン作成、モニタリング、アセスメントを担当している。半年ごとの見直し時には担当者が職員に個別に聞き取りを行うことで意見集約を行う。見直し時の担当者会議には家族にも参加してもらっている。	全体でプラン共有して、現場の意見を反映させるために、見直し時や、実践の際にプランに目を通せる仕組みややり方も検討してはどうだろうか。また、医師などの専門職からの意見照会や情報を担当者会議録に落とし込むことでより実践的なチームケアにつながることも期待される。

H28自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録に日々の生活状況を記入してもらっている。 ・直接現場に足を運び、実践状況などを確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状況やご家族の要望に応じながら、福祉用具の購入やボランティアの受け入れ募集など、施設以外のサービスの検討を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域周辺の商店や自治会行事、娯楽施設などに、一緒に赴き地域貢献や気分転換などを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者、ご家族のご希望に応じて、かかりつけ医、緊急時の受診施設を調整している。	母体病院をかかりつけ医にする方も多いが、希望されれば他科の専門医を受診することもでき、事業所からも通院支援している。提携医は2週に1回の往診があり、日々連携して健康管理につなげており、必要時には随時家族にも状況報告を行う。情報は受診結果簿にまとめることで情報の抜けがないようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・理事長である医師と綿密に連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・受診前の連絡相談を実施している。 ・入院時にサマリーを提供。 ・退院時の情報収集、及び診療情報提供書の内容把握。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・体調、状態を観察し、主治医と相談のもと家族への報告、今後の対応について検討している。	年内にも2名の看取りを行い、重度化の際には主治医とともに説明を行い、プランに方針を入れ込むことで対応を行った。対応時には家族と話し合い情報を職員間で共有しており、提携医は24時間、夜間救急時に対応している。今後も希望があれば最期まで支援する方針である。	看取り指針の見直しと、対応時の指針に関する同意書を事業所として話し合い、書式が作成されることが望まれる。ターミナルケアや医療に関する勉強会も継続的になされてはどうか。

H28自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを作成し、周知している。 ・救命講習を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回の防災訓練の実施。 ・地域の方が検討している水害を想定した訓練への参加を予定している。	年2回のうち1回が消防署の立会いで、夜間想定訓練も行っている。上層階からの避難は外階段を使って行える。新入職員の入職時のオリエンテーションで避難手順などについては伝達しており、マニュアルの整備もしている。現状では備蓄物の確保はしていない。	今後は地域の方や自治会の方などとも、協力体制を築き、訓練時の案内や運営推進会議での同日開催などを検討されることが期待される。備蓄物の準備なども進められてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員が常に心がけるようにし、よそよそしくない程度に、節度ある対応をしている。 ・できていない場合はその都度管理者を中心に指導している。	内部研修によってマナーやプライバシーに関しての学習を定期的に行っている。言葉遣いに関して、日頃気になる言動がある場合には管理者からその都度注意する。言葉遣いも過度に堅苦しくならないよう、丁寧でありながら親しみやすい働きかけを心がけている。写真の利用についても個別に同意をとって許可を得たものだけに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・業務の流れを優先するのではなく、できる範囲で本人の要望、希望を聞きながらケアを実施している。(入浴したくないという申し出のある利用者の対応等)		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者個々にそった、生活リズムを尊重している。(就寝・起床時間等)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎月の訪問理美容の実施。 ・本人様の希望に沿いながら、ヘアカラーやカットの実施。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・配膳、下膳、盛り付けを利用者様と職員と一緒にやっている。	もっぱら調理を主に担当する職員がおり、施設全体で集約して調理され、入居者には出来ることを手伝ってもらっている。メニューは施設長が作成し、地元の食材を活かした料理を提供しており、要望や感想なども聞きながらの対応もしている。職員は別の時間に希望すれば同じものを食べられる。調理レクなどで一緒に調理することもある。	食事介助に関して、個別の要望もあがっていたので、職員間で情報と状況を共有して、スムーズな食事が進むように話し合われてはどうか。

H28自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・状態に応じた食事の形態を考慮し、食事量や水分量の把握を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの実施、見守りを行っている。 ・毎月の訪問歯科の往診の実施。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・できるだけ、リハビリパンツ、オムツを使用しないよう、支援している。 ・リハビリパンツ、オムツ使用の方については、誘導時間等考慮しながら、トイレでの排泄を促している。	ユニットごとに24時間管理の排泄チェック表があり、別途排便期間の把握のために別紙への転記もを行っている。入居者ごとの状況も把握して、パットのサイズを変えたり、トイレへの誘導時間を変えることもある。状態の変化に気づいた職員が提案して失敗がすくなくなり、排泄状態の改善につながった方もいた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘、緩下剤についての知識向上を目的とした、勉強会の実施。 ・水分量の把握、主治医との相談による排便コントロールの実施。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・職員配置の中で、できる範囲で御希望を聞きながら、できるだけ本人様の希望に沿えるよう実施している。	入口は引き戸で開口も広く、三方向介助が出来る普通浴の造りで手すりも各所につけられている。平均して週2~4回の入浴で、時間帯も希望を聞きながら午前から夕食後の対応をすることもある。入浴介助専門の職員がおり主に担当する。必要時には小規模多機能の機械浴での対応も可能で、中庭には足浴施設もあり、レク的にも利用されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて、休息できるよう職員全員で気を配っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の内容を理解し、留意点について理解し、対応を徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の希望等考慮しながら、入居者様に応じた家事の分担を実施している。 ・外出、おやつ作り等ご希望に応じて参加して頂けるように努力している。		

H28自己・外部評価表(GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人様の趣味や要望などをお聞きし、実現に至ることのできるよう、ご家族・職員と話し合い実際に外出できるような支援体制を行っている。	季節的な外出行事以外にもその日の要望などで個別や、少人数での対応もまめに行っており、近くへのドライブや買い物などの機会も多い。気候のいい時期は毎週のように浜釣りに行ったり、飼っている犬の散歩などの外出もしている。車いすの方や意欲の乏しい方も近場などで外出機会を持っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理が難しい方々が多く、ほとんどの方は外出時の買い物の直前にお渡しするようにしている。数名は小分けしたお財布を管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・気兼ねなく行えるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日の清掃を心掛け、清潔な環境を保てるよう努めている。 ・気温や天気に合わせて、換気や室温調整、採光を行い、快適に過ごせるように努めている。	1, 2Fに1ユニットずつが配置され、中庭は広めでウッドデッキがあり、BBQや足湯が楽しめるスペースになっている。リビングと居室スペースも廊下でつながるため静かに休むこともできる。日中はテレビだけでなく音楽を流し、活動の妨げにならないようにも配慮し、2つある多角形のテーブルで思い思いの時間を過ごしていた。トイレは2か所で、内1か所は男性用便器もある。屋上で犬が2匹飼われており、散歩に連れて行ったり、関門海峡の花火の時期には特等席にもなっている。玄関前やリビングではメダカも多数飼われており、丁寧に飼育したものを秋祭りなどでお分けすることもあるという。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご自分の席だけでなく、ベンチを設置しご自由に利用できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・昔からなじみの家具や食器などをお持ちいただくようにしていただき、安心できる環境づくりに努めている。	ベッドは備え付けであり、通常は木製ベッドだが、必要に応じて介護ベッドに変えることもできる。収納スペースは棚上にちょっとしたものが置けるだけだが、季節物の入れ替えは家族に依頼したり、事業所の倉庫を使うことで、きれいに整理されている。ソファやテレビなどの持ち込みも自由で、中には冷蔵庫を持ち込んで個人の飲み物を管理する方もいた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人様のADLにあわせ、居室や利用空間への距離を考慮している。また、手すりやその他福祉用具などを利用し、できる限りご自分の力を使って生活していただけるよう工夫している。・できる段階に分け、家事活動などをできるだけ行っていただけるようにしている。		